

## 学生からの教室への要望と教員からの返答

H17年度

- ・教室が広い場合はマイクを使用してもらいたい。
- ・工事などがあつたりして聞き取りにくい授業もあるので、マイクを使って欲しいです。
- ・声が小さくて聞き取りにくい。

以上の3つの意見に対しての回答：2006年4月に工学部2号館の改修に伴って、各教室には空調設備、視聴覚機器、スクリーン、マイク、プロジェクターが整備されました。そのため、教員の声が聞き取りにくい場合には「声が聞こえません」と遠慮せず指摘して下さい。

- ・授業の中でどれが重要な部分なのか、また学習したことをどのように使うのかが分かりにくいものがあった。

回答：すべてが重要と考えてください。これが重要、これは重要ではないというような判断は授業を聴いている皆さんがすることです。とにかく集中して授業を聞きようにして下さい。それとともに、シラバスには授業の最重要3項目が挙げられていますので、それも参考に判断して下さい。

- ・板書やOHPなどをノートに書き写す時間がないまま先に進む時がある。なので、そういった資料も配布してほしい。

回答：確かに授業の進行速度に若干問題があるようですが、一方で資料を配布するとそこで安心してしまい授業に集中しなくなるケースがあります。皆さんの板書の写しが間に合わなければ、内容をフォローする資料を配布するなどして、適宜対応していきたいと思います。

- ・もっと授業に関連する配布物がほしい。本の一部の引用でもいいので、そこから自分で興味を持って、いろいろ本を読むことができますと思います。

回答：そうですね、いろんな切り口があると思いますので、参考になる書物のコピーの一部などは、配布するようになっていきます。配布する資料によっては、最後に参考文献リストをつけている場合もあります。このような情報から自ら本の検索をすることも可能だと思います。

- ・応用より基礎を徹底してほしい。

回答：皆さんからの意見を参考に、社会環境工学科では、低学年で基礎科目を、学年が進むにつれて応用科目を取れるようなカリキュラムにしました。このカリキュラムにしたがって関係した科目を履修していくと、卒業時には社会環境工学の基礎から応用を修得することができます。

- ・教科書ではわかりにくい部分を授業でわかりやすく説明してほしい。

回答：教科書でわかりにくい部分については、詳細に説明するように工夫しています。わからない部分は授業中に質問したり、あるいは各教員が公開しているオフィスアワーの時間帯に教員の部屋を訪問して質問して下さい。それができない場合は図書館などに出かけ、参考書を見ながら自分で理解するように努めて下さい。高校までのように、与えられてばかりでは大学の勉強にはついていけません。自分で積極的に学んでください。

- ・アンケートが毎年同じで、使いまわしされているところに疑問を感じる。去年も同じアンケートを書いたがその集計が取れていないため今年も同じ質問をするのか不満を感じた。なぜ大学院になってまで学部のアンケート

に答えなければならないのか疑問に思った。このように意見を書いても見ていないような気がする。大学院の学生に回答させるのであればアンケートの実施目的をもっとわかるように書き換えてください。

回答：意見を見ていないことは全くなく、教員全員で皆さんからの意見を受け止め、改善できることは改善するように努力しています。大学院の皆さんには本プログラムの卒業生としてアンケートをお願いしております。アンケート結果は毎年きちんと集計しておりますし、その一部は学生の手引きにのせています。意見を参考にし、今後、皆さんに、アンケート冊子に記載するなど集計結果の重要な部分を提示できるように努力します。毎年繰り返しのアンケートで不満に感じられているかも知れませんが、このような継続により、本教育プログラムの問題点や改善すべき点が明らかになってきています。また、教室としての改善によりアンケート結果に変化が現れています。教室をより良くし、多くの優れた後輩が育つために、どうか今後も協力して下さい。

・定期的なレポートの評価があると集中を持続しやすい。

回答：皆さんからのアンケート回答によりますと、学習時間（授業の予習・復習）が少ない学生の割合が小さくはありません。学習時間を増やし、授業の理解度を向上させるために、いずれの授業も定期試験だけではなく、レポートや小テストなどを取り入れています。シラバスを見てわかりますように、定期試験とレポート、小テストの結果に基づいて、総合的に成績を評価しています。また、レポート、小テスト、定期試験の結果を皆さんに返却するように努力していますので、自分の点数（評価）が確かめられます。このように当学科の教育プログラムは、定期試験だけで成績を評価しているわけではないことを確認下さい。

#### H16年度

・シラバスとは異なる内容やまったく関係のない内容の講義などが過去2年の中で感じられるものがあった。

回答：質問の問題は、授業の担当教員の交代などで授業内容が変わったためと思われます。シラバスを常に最新のものにすること、授業内容がシラバスに沿うこと、シラバスから授業の目的と内容がわかること、を心掛けております。授業の進行状況から、シラバスとは多少内容が変わる場合もありますが、必ず最重要項目と関連しており、大きな変更はありません。

・大講義室で授業をするときは必ずマイクを使ってほしい。マイクの使い方がわからない教官もいるし、パワーポイントやビデオの再生で時間を浪費するのはやめてほしい。

回答：使い方については、各教室にビデオ、マイク等の取り扱い説明書を掲示していただいています。

・講義に対してではないが、研究室紹介は、研究室希望を出す前にしてほしかった。

回答：蘇逵会学生役員のご尽力で、3年生対象として平成17年度より研究室巡りを行っています。各研究室の学生が主体となり、十分時間を掛けて3年生に研究内容を紹介しています。また、卒業研究発表会に3年生全員が参加することを義務付けていますので、これでも研究内容を知ることができます。各研究室のホームページも充実しています。もちろん教員による研究室紹介も4年次進級早々に行っています。このように研究室を知る機会はいくらでもありますので、受け身にならず、日頃より研究室の内容の把握に努力して下さい。また、質問があれば積極的に教員に質問して下さい。

・三年は学生がテーマを決めてプロジェクトを組めるような授業がいい。

回答：学生自身がテーマを決められたらよいのですが、全ての学生がテーマを決められるか不安材料があるので、「社会基盤設計演習」(3年前期)では先生方に提案してもらい、学生が自由に選んで取り組めるプロジェクトの授業にしています。

・もっと生徒が意欲的に取り組めるように関心を与えてほしい。板書をもう少し丁寧にやってほしい。

回答：各教員は最近の話題などを紹介して、より具体的な問題を示し、興味をもってもらおうよう努力しています。しかし、導入はできてもその後の興味は学生諸君の日々の努力に負うところが多い。多くの情報を自ら取り入れて、消化していただきたい。板書はできるだけ丁寧に行ってもらうように、教員全員にお願いしています。

#### H15年度

・土日などの休日でもパソコンを使えるようにしてほしい。

回答：休日に2号館,1号館のリフレッシュルーム,総合情報基盤センターのコンピュータ実習室を開放することはセキュリティの面で極めて難しい問題です。ただし、情報の検索でしたら休日でも図書館を利用できます。

・プリントをくばると良いと思う。

回答：プリントをもらって安心して居眠りする学生さんもいますので、プリントを毎回配布することが必ずしも良いとは限りません。しかし、不完全なプリントを配布することで、講義ではそのプリントを完全なものにしていくような穴埋め形式の講義をすることで、プリントの配布の効果も得られると考えています。

・前・後期を通して同じようなことを繰り返したりもしていたので一部発展性を持たせて欲しい。

回答：どの科目かわかりませんが、現在科目ごとにそれらの繋がりを確認するとともに、教えている内容についても調査しています。この結果、前後期で重なった内容を教えている場合が判明したなら、その科目の内容を修正する予定です。

・講義の必要性や意義が分かりにくいものがあった。

回答：第1回目の授業でガイダンスを行い、授業の必要性やその意義を話すようにしています。もし、最初の授業を欠席した場合にはそれがわからないと思います。最初の授業はとても大切ですので、決して欠席をしないようにしてください。また、授業の回数が進んでいくと各論に入り、授業の必要性や意義を忘れがちです。ちょっと立ち止まって最初の授業を思い出してください。

・将来的にどのような面で役に立つかなど詳しく知りたい。

回答：教員は現実の問題と授業で教えていることを結びつけるようにしています。わからないことがある場合、ぜひ授業中に質問してください。教員によっては授業時間ごとにアンケートやレポートを出しています。それを積極的に利用して理解に努めてください。

・OHPを多用する授業は、たしかにわかりやすいが、わかったつもりになりやすいし、復習もしにくいので内容を網羅するようなレジュメ、復習プリントを配布して理解しやすくしてほしい。

回答：わかったつもりになりやすいということも大事なことです。そして、この要望は、さらに磨いて本物にしていこうという姿勢を示していると思います。十分な復習ができるように、資料配布などを行っているはずですが、さらに学生の皆さんが満足のいく復習ができる演習問題を配布するようにしていきたいと思います。

・説明をするだけで、演習をぜんぜんしない授業があるので演習もしてほしい。

回答：ほとんどの授業では多少は演習やレポートで実施されていると思いますが、もし全然演習がなかったら、授業アンケートの自由記述の欄に記入してもらおうと、先生の方で対応されると思います。

・しばしば授業のスピードが早く聞き取れない、ノートを取れないということがあるので、教科書のどの部分をやっているのかという説明やプリントの補充などを充実させてほしい。

回答：これは、教員が教えることに集中しすぎて皆さんの板書のペースを無視しているような場面でしょうか。このような場合、「先生、少しスピードを落としてもらえませんか？」と発言してもらって全く問題ありません。大事なことは、皆さん方が理解することですから、その理解を深めるために、授業を少し中断させて板書を取らせてもらうことは何の問題もありません。但し、予習をしておかないとついていけない授業中にはあります。また、15回の授業の中で消化しなければならないカリキュラムのことを考えると、あまりとどまることも出来ないという現状もあります。我々もプリントを用意するなどの対応はしますが、学生の皆さんも遅刻をせずにもう十分な予習をして望んでほしいと思います。

・講義室の機器が正常に作動しないことが多い。講義が滞ることがある。

回答：教務係に伝えますので、遠慮なくご指摘下さい。

・実験、実習などをもっと取り入れたほうが良いと思う。

回答：カリキュラムを見直し、平成18年度からは実験・演習を1年生にも取り入れました。

・パワーポイントを使って授業を進めるときは出来ればパワーポイントを印刷してもらいたい。(ノート代わりに使いたいのと、どんどん進むときは講義内容を聞き逃す時があるから。)

回答：パワーポイントを使った講義では、部屋を暗くするため、眠気を誘います。したがって、講義終了後に資料を配布するのが相応しいという考えもあります。いずれにせよ、パワーポイントを使った講義は板書する講義よりも講義の進行速度は速い場合があるので、皆さんが考え、理解しようという努力のスピードを振り切らないようにそれをサポートする資料を配布して対応したいと思います。

・板書や資料(教科書)だけでなく、近年のトピックなどを入れたりして工夫してほしい。

回答：最近の話題をできるだけ取り入れるよう各教員にお願いしています。また、1年生、2年生は現場や施設の見学会に参加し、3年生はインターンシップに参加することによって、より具体的な問題を体験できる機会を用意しています。

・実験、実習などがもっと多ければよいと思う。

回答：カリキュラムを見直し、平成18年度からは実験・演習を1年生にも取り入れました。

・教授によって毎回(毎年)同じテキストを使っている感じがして工夫が感じられない。もっと学生の意見を参考に指導方法を改善して欲しい。

回答：学期末ごとに学生へのアンケートを実施し、各教員はその結果を基に授業の内容や指導方法の改善を行っています。したがって、学生諸君はこのアンケートで本当に感じたこと、思ったことなどを積極的かつ具体的に指摘して下さい。

・現場見学など学外授業をもっと取り入れて欲しい。

回答：1年次の1泊2日の合宿研修旅行、2年次の現場見学旅行(日帰り)、3年次の夏休みに行う2週間ほどのインターシップが、現場を実際に見学できる機会として教育プログラムに用意されています。特にインターシップには例年、3年生のほぼ全員が参加しており、他大学には見られない特徴です。その他に、企業や官公庁の第一線で活躍されている方を招いての特別講演会も多く開催しています。これらとは別に、大学近くでの現場見学を取り入れている授業もあります。このように当学科の教育プログラムには学外見学・実習の機会が多く組み込まれています。

・基礎力や専門力を養うといった意味では個別の講義は充実していると思う。さらに実務力や総合力を付けるにはそれらの関連性を常に意識できるような体制にできたらさらに充実するのではないだろうか。

回答：皆さんが入学したときに配布した「学生の手引き」を見てください。これを見ると講義課目の繋がりが書かれています。それを十分理解して講義に望んでください。きっと総合力を身に付けることができます。しかし、実務力は大学の講義だけでは無理でしょう。実験科目、演習科目を積極的に履修するとともに、夏休みに行うインターシップに積極的に参加してください。

・学生と先生の対話がない。

回答：皆さん一人一人には3年次まではインストラクターの先生、卒業研究に着手できました4年次には研究室の先生がついております。これに加えまして担任、学生支援委員、教務委員の先生方が皆さんの色々な相談に応じられます。3年次までは先生との対話が少なく感じるかも知れませんが、インストラクターの先生との面談時に色々対話できるはずです。また、授業時には、わからない点はいつでも質問に来て下さい、と呼び掛けてはいますが、実際質問に来る学生はごく限られています。教員側からも積極的に皆さんに話しかけることを心掛けますので、皆さんもぜひ受け身にならず、小さなことでも結構ですので、積極的に教員に質問、相談して下さい。

#### H14年度

・各授業がどのような意味で、どのような職につくために必要かが分からないので、取り組みづらかった。先生によっては大変熱意が感じられたが、OHPが全く見えなかったり、声が全く聞こえない先生もいた。

回答：機器の故障については、教員に連絡して下さい。教務係を通じて修理していただきます。また、スクリーン上の文字や図面が良く見えなかったり、声が聞こえない場合には遠慮せずに教員に伝えて下さい。喜んで対処します。

・OHPで資料を講義で見たが、グラフや統計などは後で見直したいので、プリントの配布をしてほしいことがあった。

回答：もっともな意見ですので、皆さんが考え、理解しようという努力のスピードを振り切らないよう

にそれをサポートする資料を配布して対応したいと思います。

・他の教科との関連性なども教えてほしい。

回答：皆さんが入学したときに配布した「学生の手引き」を見てください。これを見ると講義課目の繋がりが書かれています。それを十分理解して講義に望んでください。

・授業によっては講義の中でももう少し演習をやってもらいたい。

回答：ほとんどの授業では多少は演習やレポートで実施されていると思いますが、もし全然演習がなかったら、授業アンケートの自由記述の欄に記入してもらおうと、先生の方で対応されると思います。

・設計や製図、環境アセスメントの手法など実務的な授業も開講して欲しい。

回答：学部の授業では土木環境系のカバーする分野が広過ぎて、カリキュラム上基礎的な部分に重点を置いたものになっています。しかし、「社会基盤設計演習」などでは設計や製図を取り入れたテーマもあると思います。

・その講義の位置付けがどういうものか授業の最初にもっと示してもらおうといいと思う。

回答：第1回目の授業でガイダンスを行い、授業の必要性やその意義を話すようにしています。もし、最初の授業を欠席した場合にはそれがわからないと思います。最初の授業はとても大切ですので、決して欠席をしないようにしてください。また、授業の回数が進んでいくと各論に入り、授業の必要性や意義を忘れがちです。ちょっと立ち止まって最初の授業を思い出してください。

・教科書だけでなく、資料がもう少し足りなかった気がする。

回答：十分な復習ができるように、資料配布などを行っているはずですが、さらに学生の皆さんが満足のいく復習ができる演習問題を配布するようになっていきたいと思っています。